

「学校力向上に関する総合実践事業」を基軸にした学校改革
北見市立光西中学校 学級数 16 (校長 小野 朋之)

実践の概要

本校では、「学校力向上に関する総合実践事業」の指定校として、中核校の北見市立三輪小学校と指定校の北見市立西小学校を合わせた3校で、9年間で目指す子どもの姿を共有するなど、今日的な教育課題を解決する学校モデルを構築し、中学校区が一体となった学校改革を推進している。

1 実践の目的

全教職員が一つのチームとなって包括的な学校改善を図りながら、今日的な教育課題を解決する学校モデルを中学校区の学校と連携して構築し、実践の成果を普及・啓発する。

2 実践内容

(1) 実施計画

小中連携の取組：9年間で目指す子どもの姿の共有、事務職員の連携

授業改革の取組：ほっかいどうチャレンジテストの活用と分析

働き方改革の取組：チームで取り組む業務の効率化

(2) 取組の具体

全国学力・学習状況調査の結果等から課題を分析・共有するために中学校区3校の主幹教諭が年度当初に打合せを行い、今年度の見通しを立てた。打合せを基に、情報活用能力育成の系統表や各教科・領域における9年間で目指す子どもの姿を明らかにした「9年間の学びのデザイン」を作成した。その上で、各学校の授業を参観し、「子どもの姿」や「授業改善の手立て」を中学校区で確認した。また、「学校力向上に関する総合実践事業事務部会」を開催し、学校事務の共同実施を見据え、事務職員の交流・連携を計画的に行い、事務の効率化を図った。

主幹教諭がほっかいどうチャレンジテストの分析結果を「チャレンジテスト通信」として発行し、本校生徒が苦手とする学習課題を明らかにし、課題解決の具体的方策を示して組織的な授業改善を推進した。

「働き方改革チーム」を設置し、小中連携しながら、校区の小中学校2校で既に実施していた生徒の欠席連絡をデジタル化するシステム等を導入するなど、業務の効率化を図った。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

地域協議会では、学力向上に係る取組や働き方改革に対する取組を交流した。参加者からの意見を基に、学力向上に係る取組については、ほっかいどうチャレンジテストをより詳しく分析し、小中連携して日常の授業改善に生かす必要があることを確認した。働き方改革については、目的が全教職員で共有されていないことから、目的を明らかにした取組を進める必要があることを確認した。

(4) 改善後の取組

主幹教諭を中心に、中学校区3校でロードマップを見直すとともに、教育局の学校教育指導の際に授業交流を実施することにより、小中学校の教員が「授業改善の手立て」のイメージを共有することができた。

ほっかいどうチャレンジテストのS-P表を活用し、各教科担任が、生徒に必要な資質・能力を身に付けさせるために、日常的に授業改善を推進することができた。

日常業務のデジタル化を図るだけでなく、教職員の負担軽減、教材研究や生徒指導等の本来業務への専念という視点から、運動会の平日実施や修学旅行の旅行期間について協議し、実施方法を見直すことができた。

3 実践のポイント

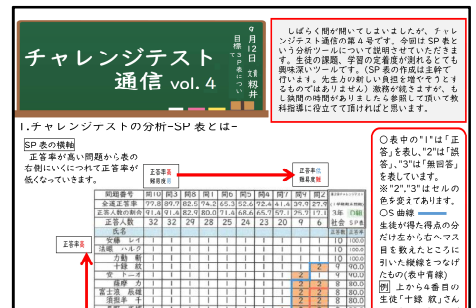
- ・「学校力向上に関する総合実践事業」を基軸に、様々な面で学校改革を推進すること
- ・9年間を見通した教育課程を編成して共有することにより、学校課題を明確にし、その解決に向けて小中連携や授業改善、働き方改革等の取組を着実に推進すること



【地域協議会の様子】



【学校間授業参観の様子】



【チャレンジテスト通信】